

# 入学式・始業式の日々の経営の工夫

## ～児童生徒との“出会い”の演出～

埼玉県教育局東部教育事務所

新年度。児童生徒は、期待に胸を膨らませて入学式や第1学期の始業式を迎えます。「どんな友達がいるのだろうか…」「学級担任はどんな先生だろうか…」「今年の学校はどんな様子で、どんな学校生活になるのだろうか…」などと、期待と不安の入り交じった緊張感の中で校門をくぐることになります。

小・中学生にとって、新年度の友達や教師との出会いは重大な関心事です。今年度の学級経営の成否は、この出会いの時に、いかに児童生徒に学校生活への期待をもたせるかにかかっています。学級担任として、児童生徒の不安を取り除き、期待感をもたせるために、入学式・始業式の日々の“出会い”の工夫を考えてみましょう。

### 1 児童生徒にとっての入学式・始業式

児童生徒にとって入学式や第1学期の始業式は特別な日です。どんな気持ちを抱いているのでしょうか。彼らの気持ちになって考えてみましょう。

◆どの学級（クラス）になるのかな…

◆担任は、どんな先生なのかな…

◆どんな友達がいるのかな…



特に当日の学級の発表は、児童生徒にとって最大の関心事です。上記3点は、今年度の自分の学校生活を大きく左右するものだと思っている筈です。

そこで、当然のことですが

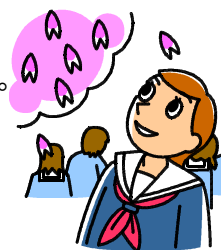
○この学級（クラス）は楽しそう…

○この担任の先生なら、よい学級にしてくれそう…

○友達がたくさんできそう…

というように、入学式・始業式の日々の学級経営は、「よい一年間になりそうだ」と児童生徒に感じ取らせることが最も大切なことだと言えます。

学級担任として、このような子どもたちの気持ちを念頭に置いて、児童生徒との“出会い”を演出しましょう。



### 2 児童生徒の迎え方

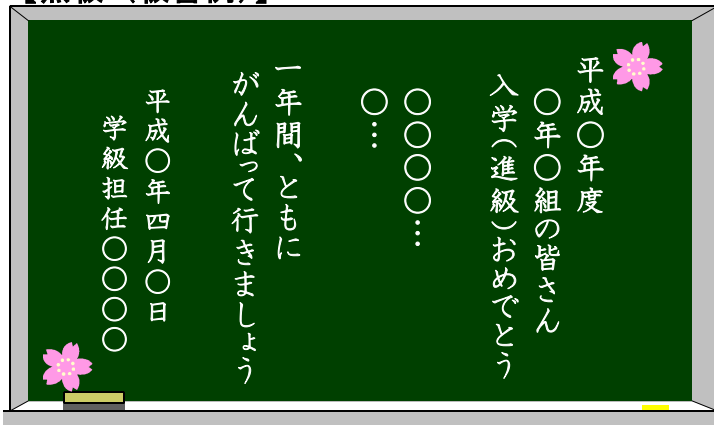
入学式・始業式は学校行事（特別活動の学校行事：儀式的行事）です。どこの学校でも、年度当初の職員会議で示された指導計画（実施計画、実施要項）に沿って、全教職員が協力して実施運営に当たります。

そのような中、入学・進級の違いや学校の指導計画に違いによって出会い方は様々ですが、学級担任教師は自分の学級の生徒を教室に迎え入れ、学級担任として初の顔合わせをすることになります。ここでの配慮事項を挙げてみます。

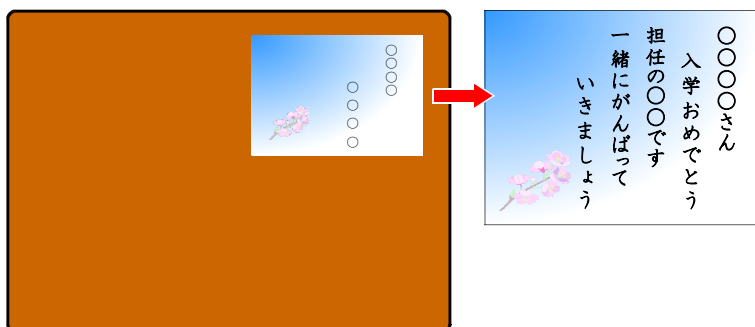
#### （1）美しい教室環境で児童生徒を迎える

登校後、児童生徒は新しい学年学級の教室に入ります。今まで入ったことのない教室、見知らぬクラスメイトなど、子どもたちは期待をもちながらも心細い心境もあり、緊張感の中にあると考えられます。そこで、教室環境の演出について考えてみましょう。

## 【黒板（板書例）】



## 【机上（カード例）】



入室とともに児童生徒の目に入るものは、教室前面の黒板、そして自席の机上になります。

児童生徒との出会いの演出として事前に仕込みができる場所の代表はこの2か所になります。

黒板は、全員の目にとまるものですから、児童生徒全員に対して希望をもたせるようなメッセージを板書しておくといよいでしょう。

また、机は、児童生徒個々が自席に着くことになりますから、それぞれに対する（個人宛）のメッセージをしたためることができます。封に入れて手紙にすることもできますし、児童生徒から学級担任への自己紹介等を記入できるカードや当日配布の学級通信（学級だより）等を用意しておくなど、色々と創意工夫することができます。

## （2）豊かな表情で児童生徒を迎える

人と人との出会いについて、第一印象が大切であることは言うまでもありません。いわゆる「師弟関係」を結ぶことになる「教師と児童生徒との出会い」であれば、なおさらのこと、最初の出会いにおける第一印象は大切なものとなるでしょう。それだけに、学級担任となる教師は、豊かな表情で児童生徒を迎えたいものです。

表情豊かな教師に対して、児童生徒は親和感を抱きます。学級全体を見わたす目と児童生徒一人一人を見つめる目をもって温かく教室に迎え入れ、それまで児童生徒との出会いを楽しみに待っていた自分の思いを語りましょう。

## （3）児童生徒一人一人が存在感をもつことができるようにする

### ①児童生徒一人一人の氏名に注意する

机や椅子・ロッカー・下足箱など、これから使用する所定の場所には、しっかりと児童生徒の氏名が書かれているようにします。子どもたちにとって自分の名前が書かれていることは嬉しいものです。また、出席簿で呼名する際にも名前の読み方を最初に確認します。手違いで氏名が抜けていたり間違っていたりすることは、子どもたちとの出会いをマイナスにしてしまうばかりでなく、保護者からの信用も失いかねません。児童生徒の氏名（文字、読み）には特に細心の注意を払いましょう。

### ②児童生徒全員に公平な機会を与える

児童生徒は当然、一人一人が違った性格・行動をもっています。質問に対する受け答えなど、目立ってしまう何人かの子どもばかりに注目するのではなく、常に全員に等しく接し、発言や発表などの機会を公平に与えることが大切です。学級担任が児童生徒一人一人との出会いを期待し、創意工夫を凝らした方法で、どの児童生徒も存在感を味わうことができるよう出会いを演出したいものです。

## （4）学校生活に期待や夢がもてるような話題を用意する

児童生徒が、これからの学校生活に期待や夢をもつことができるように



するためには、次のような配慮が大切です。

- ①学級担任の自己紹介を工夫する
- ②学級経営方針を解りやすく説明し、児童生徒の考えを聞く
- ③児童生徒がどのような学級にしたいのかを把握する
- ④児童生徒一人一人が理想の学級の実現のために協力することを約束し合う
- ⑤学級経営方針や児童生徒、保護者等の願いを含めて、数日後に学級目標を設定することを話す

### (5) 保護者の信頼を得られるよう、自らの学級経営方針を簡潔に語る

新入生の学級では、教室での児童生徒との最初の出会いに保護者が加わっている場合が多く見られます。入学式当日に保護者との顔合わせがある場合、次のような点に配慮します。

- ①学級担任として預かる児童生徒一人一人を大切にしていける考えを簡潔に話す
- ②発行した（発行する）学級通信（学級だより）について、簡潔に説明する
- ③保護者への多くの要求はしない、学級担任としての基本姿勢を話すに止める
- ④明日からの学校生活に必要な持ち物や予定などを配布できるようにする

入学式当日は保護者も期待と不安でいっぱいな筈です。「どんな先生が学級担任になるのか」「今度の学級担任は、どんな教育方針か」といったことを心配しています。

学級担任の教師としては、保護者の不安を解消するために、「我が子を安心して任せられる」という気持ちもてるよう、簡潔に教育方針を述べ、保護者の理解を図ることが大切です。

## 3 出会いの演出とその具体

## 入学おめでとう

学級担任の教師と児童生徒との出会いの演出について、教師のかかわり方や留意点として挙げられる主なものは、次のとおりです。

### (1) 「呼名」の工夫（入学式での呼名、進級時最初の出席確認等）

入学式での呼名（1年生）や進級学級での初の出席確認（2年生以上）は、一年間の最初の存在確認であるとともに、担任教師と児童生徒の最初の出会いとなります。教師の呼名に対する返事について、「元気だね」「いい返事だね」などとそのよさを認め、返事の他にも、できる限り児童生徒のよさ（特徴・持ち味）を見つけ、全体の前で紹介します。紹介された者も周囲の者も互いの存在を尊重する姿勢につながります。

### (2) 「場」を整える

入学も進級も、児童生徒の成長の一区切りであり、それを最も祝って喜ぶべきは、子どもたちを直に預かる学級担任の教師です。児童生徒が入る教室や学年の廊下壁面などは美しくお祝いムードを醸し出して、児童生徒が「自分たちの入学・進級を祝福してくれているんだ…」と思えるような環境を整えたいところです。

学年主任をはじめとする学年職員の協力の下、生活空間の清掃はもちろんのこと、生花や掲示物など、児童生徒を歓迎ムードで包み込むような演出を心掛けましょう。

### (3) 児童生徒へのメッセージと教師の自己紹介

前述の板書や机上のメッセージなどでは、教師自らが自分を語るとともに、一人一人のよさを意識した内容で語りかけ、励まします。

学級編成替えて担任が代わった場合は前年度までのよさを取り上げ、持ち上がって引き続き担任となった場合は、特に評価していることについて取り上げ、一層伸ばすように励まします。

